

第64回アブダクション研究会開催のご案内

アブダクション研究会

世話人 福永征夫

TEL & FAX 0774-65-5382

E-mail : jrfd117@ybb.ne.jp

事務局 岩下幸功

TEL&FAX 042-356-3810

E-mail : yiwashita@syncreate.jp

第64回アブダクション研究会の開催について、下記の通りご案内を申し上げます。

(1) 第63回アブダクション研究会のご報告

9月13日に開かれた前回の第63回アブダクション研究会では、溝尾桂子氏（帝京大学）から『物語の歴史とアブダクション』というテーマで、英文学を中核にしつつ、幅広く研究され、知見を蓄積された、言語と文学に関する優れた学識とご経験を基礎にした、真に広くて深い示唆に富む、実り豊かなお話を伺いました。ご発表は、1. 物語の歴史 2. 物語とアブダクション 3. 批評（文学研究）の歴史 4. 時系列イメージ分析 の四部から構成され、文学の発祥以来の特徴を考察しながら、文学の本質を求めて探究をされ、かつ、自らも創意を発揮された、意義深く多様な内容を含んでいます。文学や芸術という領域からの、これらの知見は、アブダクションの本質を探求するための基盤的な知識として、今後ともに、極めて重要なものであると見られます。研究発表に関する要点は、次の通りです。

[1] 物語・物語の範囲 = 狭義と広義 =

物語とは、作者の見聞または想像を基礎とし、人物・事件について叙述した散文または韻文の文学作品をいい、狭義には、詩、戯曲、小説、随筆、日記、神話、民話から成るが、広義には、ノンフィクション、マンガ、アニメ、映画などが加わる。

[2] 物語世界の変遷 = 抽象から具象へ =

物語の世界は、抽象から具象へ変遷してきている。神話のような現実離れた物語から、次第にリアルなものになって、描写もきめ細かくなって行く。ただし、20世紀の中頃以降、具象的なものを基礎にしながらも、現実離れた抽象的な側面を具えた文学が出てくる。

[3] 抽象化は文学の本質的な特徴 = 特殊例を通じた普遍的真理 =

文学作品は、元々、多かれ少なかれ、現実世界を抽象化したものである。それは、特殊例を描いて、普遍的真理を表わす。抽象化は文学の本質的な特徴の一つであり、私小説であっても、現実そのものを描いているものではなく、やはり抽象化されている。

[4] 近現代文学の特徴 = 緻密な心理描写とリアルな情景描写 =

近現代の小説・戯曲の多くは、緻密な心理描写とリアルな情景描写を追求し、次第に緻密な、次第にリアルな描写に発展してきた。しかし、この具象化の流れの中でも、50～60年代には、不条理劇が出現して、不条理な設定・登場人物・あらすじ、を特徴とする寓話的な世界を展開した。更に、80年代以降に、緻密な心理描写とリアルな情景描写に加えて、寓話的側面をも特徴とする、抽象的なものとリアルなものとの両方を含む小説が書かれるようになり、大きな流れともなっている。

[5] 典型（代表例）の多用が文学作品の抽象度を決定する = 典型による意味の象徴的な表現 =

文学作品の抽象度を決める大きな要因としては、（1）登場人物典型が多用される、（2）典型的なあらすじを使っている、（3）元型的なイメージを多用している、ということがある。

[6] 抽象的な文学作品の特徴 = 象徴作用で人間存在のすべての要素を表現しようとする =

マックス・リュートィの「昔話の本質」による、抽象的な文学作品の特徴は、(1) 詳しい描写はない、(2) 時間を超越する、(3) 単純化し、極端化して、象徴作用によって、人間存在の要素をすべて表現しようとする、(4) 人物＝役割、関係性＝物、感情＝出来事、性質＝筋、で表現される。

[7] 無意識の領域で思考する =物語とアブダクションの共通性=

直観に基づいてなされる仮説推論と同様に、物語も無意識の領域なしには存在しない。物語や文学とは、無意識領域での思考法である。物語を読むとき、読者は何らかの思考を行う。思考をしていると感じなくても、実際には、思考せずに読むのはあり得ないと思われる。それは、論理的・科学的な思考法ではなく、日常的な思考法にも似た、感情を含んだ思考法である。

[8] 物語や文学の特徴のまとめ =<人間存在のすべてを表現する>物語を読むと思考をしてしまう=

(1) 技術として、言葉を使う、(2) 快樂要素がぎっしり詰まったエンターテインメントである、(3) テーマは常に人間である、だから、読むと思考をしてしまう、(4) 抽象度の要因による抽象化がある、どんなリアルな物語でも、現実の世界を抽象化している、(5) 作品世界はつねに動いている、読み始めると、作品世界が止まることはないから、思考もどんどん流れて行き、止まることがない。

[9] 物語や文学のことは =多様な意味を同時に響かせる=

科学のことは、ことばと意味内容を一対一に対応させて、人為的に定義して使われる。文学のことは、人為的に、少なくとも、二つや三つの意味内容を同時に響かせ、そこに、日常のことばの、あいまいさを利用して、なるべく多様な意味を同時に響かせる技術が必要になる。

[10] 物語や文学はカニツツアの錯視図形で比喩できる =明示の意味の部分と暗示の意味の部分=

有名なカニツツアの錯視図形における、白ぬきの三角形は、実際には全く書かれていないにもかかわらず、外側の黒い丸形と黒い線の三角形に誘発されて、見えてくる。物語や文学における語句・文章(記号)が外側の黒い丸形と黒い線の三角形に当たるとすると、それによって誘発される思考や感情は、実際には書かれていない、白抜き三角形の部分に当たるもので、記号と記号の間、ことばと、ことばの間、の行間に響いているもの、ということになる。

[11] 「芸術はすべて唾なのだ」(Northrop Frye) =無意識の領域の思考が芸術や文学の本質=

ノースロップ・フライは、どんな芸術もことばが言えないというが、文学にも当てはまる。文学は、ことばを使うが、意識して読んでいる、ことばの部分ではなく、無意識のところ、無意識下の思考にこそ、芸術としての文学の本質があると言える。

[12] エンターテインメントとしての文学 =文学の三つの楽しみ方=

(1) 現実とは全然違う世界が広がっているので、現実世界から開放されて、別世界に遊ぶ、自由さを獲得できる、(2) 現実的な知識を取得できる、一例に、T・ヒューズ「トム・ブラウンの学校生活」がある、(3) 自分の物語を見つける。

[13] 物語の中に自分の物語を見つける =大平健「診療室にきた赤頭巾：物語療法の世界」に見る=

これは、「テーマは常に人間である、だから、読むと思考をしてしまう」という物語の特徴そのものと関連する。精神科医・大平健は、患者と会話する際に、自分の悩みの問題がどこにあるのかを、自分で気づいてもらうように、民話、童話を用いている。あるアメリカ人の女性が、「自分の生涯は三びきのこぶたのようなものだ」として、波乱万丈の前半生を話した。大平が「あなたは、いつ、狼に襲われるかもしれないと、まだ、恐れているんですね」と言うと、びっくりして、「そうかもしれません。私も、今まで、気づきませんでした」。これが、彼女の「気づき」だった。この時、彼女は、自分の物語の本質に気づいた。そして、「これからは、医者に頼らずに暮らしてゆけそうだ」と言って帰国していった、というケースが取り上げられている。この外にも、一般に、物語の中に自分の物語を見つけている人は、結構いるようだ。自分の物語を反復して無意識領域で考えているのだ。

[14] 人生に影響を及ぼす無意識領域での思考 =内田樹のHPとA・ミラー「魂の殺人」から=

内田樹は「あらゆる人間関係がつねに同一の結果に終わる人がいる。あなたかたのまわりにも必ずいる。おそらくあなた自身も多少はそうであるはずだ・・・」と言う。幼児虐待について、精神科医 A・ミラーは「どのような形でも、(虐待を受けた子供か)自分になされた不正・・・(心理的)殺人について語れるようにしてやる必要がある・・・誰にも話せなければ、その子は、ことばを見つけることができませんから、自分にされた

と同じことをするという形で語らざるを得なくなります、・自分の物語を意識的に体験し、もはや、それを危険なやり方でやってみせなくともよくなるのに手を貸すことができるようになるかもしれませんから」と述べている。

[15] 批評（文学研究）の歴史 =19世紀半ばに科学的な文学研究が成立=

「芸術はすべて唾なのだ」と言ったノースロップ・フライは、だから、批評（文学研究）が必要なのだと言っている。どのような印象の文学作品に感動しても、その本質が作品に直接書かれているわけではないので、他の人に説明することが出来ない。そのことが、批評（文学研究）の必要性を生む。19世紀半ばに科学的な文学研究が成立して以降、様々な観点に立脚する文学研究の潮流が現れた。

[16] 時系列イメージ分析 =目的は無意識領域での思考を明らかにすること=

以上の記述を下敷きにして、溝尾による時系列イメージ分析の研究の意義と方法が説明された。研究の目的は、無意識領域での読者の思考の流れを追って行き、無意識領域での人間の思考を明らかにすることである。初めは、手作業の分析であったが、その後、コンピュータを用いた研究に発展させることができ、07年には、溝尾の「文章分析装置、及び文章分析プログラム」が特許を取得し、現在は、米国でも特許を出願中である。

[17] 時系列イメージ分析の基礎（1） =時系列イメージ分析を構成する7つの分析=

I. イメージ分析 II. 登場人物分析 III. 快楽要素分析 IV. 語りの分析 V. あらすじの分析
VI. テキスト間の関係分析 VII. クエスチョン・システム

[18] 時系列イメージ分析の基礎（2） =I. イメージ分析 を構成する7つの手がかり=

A. 固有名詞をてがかりとする B. 繰り返し現れる語句を手がかりとする C. 歴史的な手がかりを用いる
D. 精神分析学的手法を用いる E. 神話学的手法を用いる F. 印象的な語句を手がかりとする
G. 作者に関するキーワードを手がかりとする

[19] 時系列イメージ分析の基礎（3） =II. 登場人物分析 を構成する4つの手がかり=

A. 身体的特徴 B. 社会的地位 C. 機能 D. 登場人物典型

[20] 時系列イメージ分析の基礎（4） =III. 快楽要素分析 を構成する2つの手がかり・その要素=

A. 感情移入による快楽 ・力の拡大感覚 ・新奇 ・登場人物の感情の高まり
B. 読者独自の快楽 ・文章 ・謎 ・読者独自の感情の高まり ・読了後の感銘

[21] 時系列イメージ分析の基礎（5） =III. 快楽要素分析 を構成する手がかりの要素=

A. 感情移入による快楽 <・力の拡大感覚 > [・超自然] a. 神力 b. 魔力 c. ESP能力
d. 夢の中 [・権力] [・財力] [・武勇] [・魅力的容姿] [・異能]
<・新奇 > [・冒険] [・探訪] [・異国情緒]
<・主要登場人物の感情の高まり >・・・数値の総計
B. 読者独自の快楽 <・文章 > [・イメージ] [・リズム] [・同音の繰り返し]
<・謎 > [・真相は?] [・この先どうなるのか?]
<・読者独自の感情の高まり > [・滑稽さ] [・スリル] a. すれ違い b. 恐怖 [・懐かしさ]
[・子供らしさ] [・意外性] [・その他]
<・読了後の感銘 >・・・数値の総計

[22] 時系列イメージ分析の基礎（6） =IV. 語りの分析 を構成する5つの手がかり=

A. 想定された語り手の特徴 B. 想定された読者の特徴 C. 語りの方法 D. 視点
E. 初めと終わりの特徴

[23] 時系列イメージ分析の基礎（7） =V. あらすじの分析 を構成する3つの手がかり=

A. ストーリー B. プロット C. あらすじパターン

[24] 時系列イメージ分析の基礎（8） =VI. テキスト間の関係分析 を構成する4つの手がかり=

A. 影響関係 B. 典型作品との比較 C. 同一作者の他作品との比較 D. 同時代の他作者の作品との比較

[25] 時系列イメージ分析の基礎（9） =VII. クエスチョン・システム

一つの文学作品に100個前後の疑問を作ってみると、その作品の隠された意味が解ってくる。

(2) 尾上 彰プロジェクト長のHPプロジェクト会議

尾上 彰プロジェクト長のHPプロジェクト会議は、第四回の会合が8月12日に、第五回の会合が9月10日に、有楽町駅前の江崎事務所で開かれました。第六回の会合は、来る10月22日の18時から、有楽町駅前の江崎事務所で開かれる予定です。新しい方のご参加を期待しています。

既存の領域的な知をベースにして、新たな領域的な知を探索し、それらを広域的な知に組み換えて、より高次の領域的な知を仮説設定的に創造することを目標に、アブダクション研究の飛躍を期して参りますので、各界、各分野の皆様のご参加をお願いします。

記

◇ 日 時： 2008年11月15日(土) 13:00~17:00(例会)
17:30~19:30(懇親会)

◇ 場 所： 日本電気厚生年金基金会館 201号室 (中山氏のお名前で申し込み)

東京都 世田谷区 代沢5丁目33-12 電話：03-3413-0111(代)

* 小田急線/京王・井の頭線 下北沢駅 下車 徒歩約8分

* 会場の地図は、グループメールのブリーフケース内「下北沢 NEC 厚生年金基金会館 MAP」に収載。
<http://groups.yahoo.co.jp/group/abduction/files/>

◇ テーマ： 研究発表 村上 忠 良 氏

『発明技術の価値評価のための村上モデルを構築する思考と行動の
プロセスにおけるアブダクションを描き出す』

参考文献： 『場の量子論とは何か』(和田純夫著・96講談社ブルーバックス)

◇ プログラム：

(1) 諸連絡		13:00~13:10
(2) 研究発表	PART [1]	13:10~14:25
	— 休 憩 (5分) —	
	PART [2]	14:30~15:45
	— 休 憩 (5分) —	
(3) 総合的な意見交換		15:50~16:50
(4) その他の連絡事項		16:50~17:00
(5) 懇親会 (楽しく勉強になります。是非積極的にご参加ください)		17:20~19:30

* 当日の連絡先(福永・携帯電話) 080-3515-9184

第64回 アブダクション研究会（11/15）の出欠連絡

* 11/10（月）までの返信にご協力下さい。ご連絡なしの当日出席も無難可ですが、会場や資料の準備の都合もありますので、できるだけ、ご協力くださるようお願いいたします。

FA X： 042-356-3810

E-mail： abduction-owner@yahoogroups.jp

岩下 幸功 行

出席
11/15（土）の例会に、未定ですが調整 します。
欠 席

出席
懇親会に、未定ですが調整 します。
欠 席

☆ 出欠の連絡は、グループメールメニューの「投票」コーナーから行うこともできます。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/abduction/polls>

* 次々回第65回例会は、2009年1月24日（土）に開催いたします。
八尾徹氏（理化学研究所）にご発表をいただくことになっています。
テーマ名は決定次第皆様にご連絡します。大いにご期待をいただき、奮ってご参加ください。

ご署名 _____

<定例アンケート調査>

もしご協力がいただければ、という趣旨であり、必須ではありません。
皆様のメッセージ集として他の会員にも伝達しますので、情報の交流に積極的に参画下さい。

- (1) 今、アブダクションの研究・実践と関連のある事項で特に興味をもって取り組んでおられること。
- (2) 研究会の議論の場を通して INTERSECTIONAL なアイデアや知見の INCUBATION が進んでおり、例会で発表したいと思っておられること。
- (3) これまで（第1回～第63回）の研究発表やなされた議論（「議事録」を参照下さい）に関して、さらに改めて質疑や意見を表明したいと考えておられること
- (4) アブダクションの観点から、注目すべき人・研究グループ・著書（古今東西不問）。
- (5) 細分化された「知」の再構築を図るという視点から、注目すべき人・研究グループ・著書（古今東西不問）。
- (6) 貴方ご自身がお考えになられている「知」の定義とは？
- (7) その他のご意見、ご要望、連絡事項など。

特に他学会・研究会での発表内容や発表論文等についても是非お知らせ下さい。

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....